



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

あったかウェルねっとニュース 第33号

2019年10月15日発行

ホームページアドレス <http://attaka2018.starfree.jp/>

2011年3月11日の東日本大震災より丸8年が経ちました。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

福祉教育の裾野を広げよう

時代の変化や子供たちを取り巻く状況、社会情勢などを踏まえ、約10年ごとに改訂されてきた学習指導要領ですが、今回の改訂では、小学校では2020年度、中学校では2021年度から全面实施、高等学校では2022年度の入学生から年次進行で実施されるそうです。新しい学習指導要領の実施に伴い、地域にとっても、ますます「共に生きる・福祉教育」の裾野を広げることが重要になってきます。豊かな福祉観の醸成と共に、粘り強く根気よく福祉教育の輪を広げていきましょう。

下記のとおり2019(令和元)年度2回目の福祉教育研修会を1月24日(金)に行ないます。

お知らせ

**2019年度 ねっと研修会(その2)
「地域共生社会と福祉教育」
を行ないます!**

埼玉県では2025年の超少子高齢問題を抱える中で、次世代の子ども・若者たちが社会を担う年代となった時、市民の一人として、地域で社会で活躍できることが求められています。

そこで、福祉教育実践者や関係者たちが出会

い、これからの地域共生社会の実現に向けて、誰もが「共に生きる力を育む」ために、課題に気づき、問題解決への視点や方策を学び合い、埼玉県内の福祉教育実践へのステップアップを目指します。

- 開催日：2020年1月24日(金) (受付9時40分)
 時間：10時～15時30分(昼食は各自でご用意を)
 会場：坂戸市文化施設オルモ2階 情報研修室
 (東武東上線 北坂戸駅下車 東口ロータリー前)
 対象：福祉教育実践者・実践予定者・関係者・
 関心のある人(学生を含む)
 参加費：2,000円 学生 無料
 定員：40名(定員になり次第締切り)
 内容
 (1) 講演「地域共生社会と福祉教育実践」
 講師：中島 修氏(文京学院大学准教授)
 (2) 昼食タイム ～交流・情報交換～
 (3) 事例発表：埼玉IBDの会 奥野 真由氏
 (若福研福祉教育実践プログラム集執筆者)
 (4) グループワーク
 (5) まとめ「地域共生社会の実現に向けて」

申込先：ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)
 メールアドレス masako@niconico39.net

※この事業は埼玉県社協ふれあいの詩基金の助成を受けた事業の一部です。

**【予告】まなびばしゃべりばカフェ
冬カフェを企画中!**

詳細が決まり次第、ホームページやメーリングリストでお知らせします。
 どうぞ楽しみに。

まなびばしゃべりばカフェ
 をあなたの地域で!
 事務局と一緒に企画しましょう。

報告 総会・研修会

2019年度 ネット総会 報告

令和と改元されて間もない5月12日(日)、すこやかプラザセミナーホールにて総会が行なわれました。全ての議事が満場一致で承認され、2019年度の活動がスタートしました。

～*～

総会に引き続き、同会場で研修会を行ないました。

2019年度 ネット研修会 報告

「地域をつなぐ福祉教育」
～地域いろいろ、人生いろいろ～



5月12日(日)、地域福祉や福祉教育に関心がある人(大学生含む)69名が参加し、講師に原田正樹氏(日本福祉大学副学長・教授)、島村八重子氏(全国マイケアプラン・ネットワーク代表)を迎え、お二人の対談からスタートしました。

<対談> 「自分を知る・地域を知る・共に生きる」

ゲストスピーカー島村八重子氏のミニ講演「マイケアプランについて」では、自発的なケアプラン作成を目指す市民組織「全国マイケアプラン・ネットワーク」の活動を分かりやすく説明された後、自らの介護家族としての経験から、誰もが自分らしく生きるためのマイケアプラン実践についてお話しされました。

ケアプランを立てる時には、人任せにせずに納得して選ぶ、その人にぴったりのサービスは送ってきた暮らしの中にある、10人いれば10通りのケアプランがある、制度は単なるツールにすぎない、制度に縛られるのではなく暮らしを広げるツールに、等々、「マイケアプランはマイライフプラ



ン」と語られました。

それを受けて、メインコーディネーターの原田氏との対談があり、島村氏自身

の介護体験がマイケアプラン活動に結びついた意味や、自分らしい暮らしに根ざしたマイケアプランの選択こそが大事であること、介護保険制度の理念である自己選択・自己決定そして利用者主体を表わしていること。そして、本当の意味の自己責任についても、マイケアプランと福祉の理念の重なり合うところを対談から学び合いました。

…♡…

・「マイケアプラン」という言葉をはじめて知りました。自分で選択し、決めること、たとえ間違ったり失敗するリスクがあるとしても、当事者が選択することも大切だと感じました。

・ライフプランがまずあって、それを支えるための1つの方法としてケアプランがあるという考え方がとても素敵だなあと感じました。私は教育分野の出身ですが、生き方を考えるというところで深く結びつくように思いました。

・普段あまり考えてなかった事をきけて、自分の考え方、生き方について巾が広がった気がする。

<分科会>



分科会
A・B・C
D
に分かれて

午後の分科会では、分科会A～Dにそれぞれ10～15人ずつの参加者が訪れ、話題提供者から20分間のプレゼンを受け、その後、アドバイザーの助言を交えつつ、参加者と意見交換等が活発に行なわれました。

【分科会A】

「ひきこもり」～発達障害とひきこもり、
体験者のお話から一緒に考えよう！～
話題提供者 がきんちよ氏・山瀬氏
(中高年発達障害当事者)

☆アドバイザー 松本すみ子氏 (東京国際大学 教授)



...♡...

- ・ひきこもり当事者のとらえ方、目からうろこでした。本人の発言、発信が一番分かりやすく、正しい理解につながると思いました。
- ・発達障害やLGBT など、社会に知られる機会は増えているのに、受け入れる社会は、以前より、おおらかさを失ってきているように感じます。知ることと認めることの違いに福祉教育が必要だと思いました。
- ・発達障害について、学校で学んではいますが、当事者の方からお話を聞いたのは初めてでした。がきんちょ氏、山瀬氏の話聞き、発達障害であることを自覚して向き合うことが大切なのかなと感じました。

【分科会B】

「LGBTQ」～性的マイノリティーへの理解・多様な価値観を！～

話題提供者 齋喜逸江氏 (トランスジェンダー当事者)
☆アドバイザー 大島隆代氏 (早稲田大学 准教授)



...♡...

- ・福祉教育に新たなヒントがあったように思います。初めて、ご本人のお話を聞けて、勉強になりました。
- ・LGBTQの旗がなぜ6色なのか、という話もしていただき、とてもためになった。それから思ったより多いのだなと感じた。
- ・性的マイノリティーという言葉があるけれど、それは、個々の人格が異なるように、多様性の一部であり、周囲の理解が無い人や受容の関係で、生きにくさを感じさせてしまっているということで、もっと理解していけるよう学んでいきたいと

思いました。

【分科会C】

「いのち」の授業(福祉教育実践プログラムより)～小さくあたたかいのちに触れ、いのちを感じる。生きるを大切に！～

話題提供者 木暮倫子氏 (代表)・倉持尚美氏
(坂戸いのちの授業プロジェクト「Baby-smile」)
☆アドバイザー 中島 修氏 (文京学院大学 准教授)



...♡...

- ・とてもいい授業でした。続けて欲しい。
- ・いのちの大切さを、実際に妊婦の方や赤ちゃんを連れて、思春期を向かえている中高生に伝えている活動は、自身を振り返る良い機会になるのだと思います。自分の命は親や友人などにとっても大切であるということについて考えさせられました。
- ・小さいいのちでも、いのちの大切さが伝わると感じました。そして、1人ひとりが大切な存在であるということが印象に残りました。

【分科会D】

「集う」が生み出す未来の芽
～主体的に・伸びやかに・多世代がつながる！～
話題提供者 平山雄大氏

(コミュニティスペース「北坂戸ぽんわか」)
☆アドバイザー 佐藤陽氏 (十文字学園女子大学 教授)



...♡...

- ・地域の資源を使い、様々な人を巻き込んで活動されていることを知り、私の日頃の活動にも取り入れたいと思いました。得意なことを活かすこと、とても大切なことだし、すばらしいことだと思いました。

- ・地域に多世代が交流できる場があるということが、自然と福祉教育につながっていく機会になると思いました。
- ・地元の場所がある大切さ、いいなあと思った。

＜全体会＞



分科会の後の全体会では、メインコーディネーター原田正樹氏、ゲストスピーカー島村八重子氏、アドバイザーの松本すみ子氏、大島隆代氏、中島修氏、佐藤陽氏が壇上に上がり、4つの分科会からそれぞれに報告がありました。

多様な4分科会でしたが、見えにくい障害（見た目ではわかりにくい障害）、或いは同じ障害でも個性が大きく一人一人みな違うこと、生きづらさ・孤立させない地域や社会のあり方、コミュニケーションの場や多世代の交流、情報を知ることの大切さ…等々、地域・福祉・教育に共通するキーワードが出され、多様な価値観を感じ合いながらそれぞれに学びを深めました。

＜まとめ＞「2025年に向けて」

原田正樹氏より「ふだんのくらしのしあわせ」を「自分たちの生き方につなげていく！」こと、そして各自の人生での学びの発信とリフレクションを循環していくことが大事、とのことばをいただきました。

「地域をつなぐ福祉教育」の実践につなげるため「身近な社会で共に生きる・誰もが自分らしく生きる」ヒントを深く学び合う研修会となりました。



報告 いろいろ

草加市社会福祉協議会 福祉体験学習サポーター養成講座で講師



昨年に引き続き今年度も講師の依頼があり、7月24日(水)、草加市文化会館

にて行なわれた上記講座で、木野登紀子・須田正子・関口久美子・高橋キミ子・宮田新一の各氏が担当しました。

受講したのは、秋以降に小学4年生の福祉体験授業のサポーターとしての役割を担うボランティアの方々25名。

あったかウェルねっとの活動紹介をしつつ「今、なぜ福祉教育が必要なの?」、視覚障害当事者から「福祉って?共に生きるって?」の講話。続く「疑似体験のいろは」では、車椅子体験の意味・高齢者体験の意味・視覚障害体験の意味をそれぞれの担当からオムニバス形式で伝え、その後、3グループに分かれて疑似体験を行ないました。

車イス体験は屋外に出て車イスの基本操作と介助体験そしてコミュニケーション、高齢者疑似体験ではゴーグルやイヤードیفENDERや軍手を着けて高齢者の疑似体験、そして、アイマスク・ガイド体験は視覚障害者の暮らしを中心に据えて、それぞれ体験を重ねました。

一般的な疑似体験とはひと味違う体験内容のプログラムで、さまざまな気づきを促しました。受講された方々が福祉体験学習サポーターとして活躍されることを願って講座を締めくくりました。

日本福祉教育・ボランティア学習学会 拡大理事会・研究会 (in かわごえ)

9月7日(土)～8日(日)、ウエスタ川越にて日本福祉教育・ボランティア学習学会の拡大理事会・研究会が行なわれました。全国各地から参加された学会理事・特任理事による集中討議や課題別研究で協議が重ねられ、その第2日目の勉強会・交流会

で、あったかウェルねっと・若者への福祉教育研究会が事例発表する機会をいただきました。

これまで継続的にねっとの活動を支援・助言してくださってきた先生方も多い中、埼玉県の活動を初めて知った、という他県の先生方や社協関係の方も多数いらっしゃり、あったかウェルねっとの活動をより多くの方々に伝える機会となりました。20年近く埼玉県で福祉教育・ボランティア学習のネットワークを広げ続けてきたことを改めて振り返る時間となりました。



学会理事・特任理事の方々に活動を報告

With you さいたまフェスティバル 2020年2月に

埼玉県男女共同参画推進センター主催のWith You さいたまフェスティバルに今年度も参加します。

日時：2020年2月7日（金）～9日（日）

10:00～16:00（2/7は、13:00～16:00）

場所：埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）ホテルブリランテ武蔵野3・4階

展示ブースで、多様な方々との交流を図ります。少し先のことになりますが、今から予定に入れてくださるようお願いいたします。

若福研究会コーナー

若者への福祉教育研究会（若福研）では、現在、「施設プロジェクト」「若者プロジェクト」が立ち上がっています。

「施設プロジェクト」は、日本社会事業大学の菱沼幹男氏をアドバイザーとして、施設の職員が取り組む若者・子どもの受入れについて6回の報告会が終了しました。今後、施設の受け入れ態勢の充実に向けて、まとめの作業になっていきます。

また、「若者プロジェクト」については、若者自身が発信することが重要であるとのことから、若者ボランティア団体が集まり、自分たちの活動の振り返りと課題を出し合う集まりを行いました。（実施日4月2日、6月7日、7月27日、9月1日）また、9月8日（日）の筑波大学附属坂戸高校の文化祭において、団体の掲示発表を行いました。

さらに、10月14日（月・祝）には、これまでの活動集大成として「若者発！ボランティア活動実践報告会」をウエスタ川越で開催。40名近くの参加者のもと、自分たちの活動について発表しました。



当日は、聖学院大学ボランティアセンター職員で、若福研の事務局次長でもある川田虎男氏をコーディネーターとして、7つの若者ボランティア団体から報告がありました。



【参加団体】

- ・こども食堂ひこうきぐも
- ・ひだまりサロン
- ・ゆめの園ボランティア
- ・ちゅうりつぷ学習会
- ・ヤングボランティアグループコスモス
- ・つるがしま Jr サポートクラブ
- ・ていこー☆ていこー

また、それぞれの団体の受入をおこなっている、もしくは、支援をしている方々から、それぞれの活動について、学生が関わることによる意義やメリット、課題についてもお話いただきました。

支援者の皆さんからは、「若者が子ども達のモデルになっている」「異年齢の交流により良い刺激になっている」「共に活動できることで、楽しい経験を共有できた」「子どもとの橋渡し役となっている」「若いことによる新たな発想、勢い」「若者ボランティア、対象者がお互いに学び合う」「対象者の新たな一面を引き出せる」等、若者が関わることへの大きなメリットが伝えられました。

後半は、若者の代表者4名がセンターテーブル

に、周りを参加者が囲み、会場全体が参加する形で実施しました。ボランティアを始めたきっかけや活動に参加することによる自分自身の変化、社会や対象者に対する意義についてそれぞれ意見を出し合いました。

この紙面だけでは、若者のすばらしさを伝えきれないので、今後、報告書を作成し、若者ボランティアの価値について、さらに詳しくお知らせしたいと考えています。この活動により、若者ボランティアがお互いに刺激し合い、視点が広がり、さらなるブラッシュアップにつながったようです。

県社協からの情報

ヤングボランティア交流会を実施します！

ボランティア活動に関心のある高校生を対象に、活動紹介や情報交換を通して、学校を超えた仲間づくりを行う、交流会を実施します。

本交流会の企画・当日運営は、企画委員の高校生が行います。

○日時 令和元年11月14日(木)
11:00～16:00

○会場 さいたま共済会館 第1・2ホール

○プログラム ①ボランティア活動紹介
②交流・情報交換(ミニゲーム)
③グループワーク・まとめ

福祉教育に携わる皆様で参加をご希望される場合は、本会までご連絡ください。

ホームページURL：https://www.fukushi-saitama.or.jp/site/volunteer/use_7.html

第2期浦和競馬子ども基金助成事業

○対象 様々な困難を抱えながら頑張る埼玉県内の子どもたち(概ね20歳未満)を直接支援する事業を行う団体(子ども食堂や学習支援、障害のある子や医療的ケアの必要な子との交流など)。

○助成額 1団体10万円以内

○応募 所定の様式に必要事項を記入の上、団体の住所等がある市町村社会福祉協議会へ申請。

書類はホームページよりダウンロードできます。

ホームページURL：http://www.fukushi-saitama.or.jp/site/volunteer/research_11.html

○申請期間：令和元年9月2日～12月6日

締切②10月31日(木)、締切③12月6日(金)

事務局情報

11月からメーリングリストが変わります。

これまで利用してきたFreeMLのサービス終了に伴い、11月よりGoogleグループMLに変更します。新ML：attaka-net@googlegroups.com

登録アドレスの変更がありましたら事務局までお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)

メールアドレス：masako@niconico39.net

若者への福祉教育研究会の情報も

報告会や研究会が順次行なわれています。関心のある方はどうぞご参加ください。

・若者への福祉教育研究会HP

<http://wakafukuken.wixsite.com/saitama>

・フェイスブックのグループページ

<https://www.facebook.com/wakafukuken>

会費振込先のお知らせ

活動は、ねっと会費(年1000円)で運営しています。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店・

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

編集後記

台風15号の強風に続いて、19号の長時間に渡る豪雨が甚大な被害をもたらしました。埼玉県内は河川の決壊が相次ぎ、水害の恐ろしさを目の当たりにしました。二次被害が出ないように、そして、被災された方々が一日も早く元の暮らしに戻ることができますよう心から願ってやみません。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク(通称：あったかウエルねっと)

編集：あったかウエルねっと(情報担当)

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL：048-822-1435

FAX：048-822-3078

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp